

講義名	研究演習			
講義コード	15221	授業形態		開講期・曜日・時限
担当教員	小笠原 宏		備考	

学部・学科	演習分野
商学科	小笠原 宏ゼミ

概要説明
経営全般に関わるビジネス・モデルの分析及び新規提案を主眼におく。経済経営にかかわらず、文化に関する他関連派生分野の多岐にわたる教養など、深めることも目指している。あらゆる方面で現実と直面する様々な課題や問題にどう具体的に対応するかを実践例を含めて考察し、実践することを積極的に行う。[継続事業体とは]「金儲けとは」「経営戦略とは」といったポイントを、ビデオ（映画他）、新聞雑誌記事などの現実事例を、教材として全員で議論を行い、通俗的定量的な理解や考察で終わらない重要なポイントを見つけ理解することを目指す。

主な卒業論文のタイトル

ネットワークビジネスの研究
中国自動車産業の考察
POSの意義と将来性
サッカービジネスの将来性考察
企業評価手法の研究 職業としてのギャンブラー 等多様多彩。経済経営ファイナンス分野に限定しない。
(教員から指定したり制限したりすることは基本的にない。)

教員よりの要望

前期の専門基礎演習と同様に、基本的にオンライン・ライブ授業で行う予定。(zoomを使用)コロナ禍改善の兆しなどが未だ診られない状態で、教員が高齢、体質および時病歴から、できるだけ感染リスクを減らしたいと考える。ネットの回線を通じて、オンライン授業にアクセスしてきてほしい。使用する映像課題、書籍資料などは、PDF形式などで基本的にネットを通じて配布するつもり。レポートなど、受講者の各能力の向上をチェックするような機会も、もつてほしいと考える。その他は、講義開始に遠慮なく、申し出、協議していきたい。
Zoom(会議ソフト)を使用する予定にしている。ネット回線の利用環境を整え(公衆回線でなく)、マイクなど使ってきちんと発言できる環境を備えて受講することを強く推奨。

選考方法

基本的に面接をして希望や方向性を聞きたい(安直な選択と、途中放棄を防止したいため。) ゼミとは何か、何のためにあるのかの理解、認識がこちらと学生の間で基本的協議がある場合が見受けられるのでその当たり面談で相談にのる。

評価方法
基本的に基本参考文献などの教材を提示をする。課題予習と討議参加、必要回数のとレポート提出、それを元にした個別面接指導などが基本的運用方法。さらに、それぞれの授業の出席及び貢献度に応じて評価する。受け身だけの学生は、入ってもおそらく有益でないので、もっと群れるか(多人数)賑やかなゼミへ入ることを推奨。

教員英字氏名	研究室
Hiroshi Ogasawara	3411

最終学歴
慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得満期退学

学位
経営学修士(MBA)

主な研究活動・社会活動・研究業績
大学人物略歴欄他参照のこと。

趣味・特技
クレー射撃 ゴルフ テニス 映画鑑賞 旅行 模型製作 他多岐。

所属
流通科学大学商学部

所属学会
金融学会 日本ファイナンス学会 経営財務研究学会 証券経済学会 行動経済学会

専門分野
経営財務 経営戦略 投資戦略 金融論 実験経済学 行動経済学

担当科目
生活金融論 ビジネス・ゲーム 財務戦略論 ゲーミング演習(院修) 研究演習 、 卒業研究 ファイナンシャルプランニング 投資戦略論

備考
本ゼミは、2年後期からの履修可。3年生以降にしばらくはかけるつもりはないので、経営財務など、ファイナンス分野、事業経営の専門的な内容の勉強は3年生(研究演習)で行う。3年時(本演習単位取得後)には他のゼミへの転籍希望があれば最優先でバックアップ(受入側教員との折衝は自分で行うこと。サポートはする。卒業単位の獲得と所定の年限での卒業と就職先決定を最大の目的とがんばること。転ゼミしても、所属歴有学生として、必要に応じて支援、相談には継続してのっけていきますので安心のこと。(本演習)は、必修ではないので、怠慢者は単位認定出来ない。余計な救済措置もしない。)

実務経験の有無及び活用
外国銀行及びシンクタンク勤務経験があり、実業界、実務社会での要請や必要要件の理解認識を持っている。ほんとうの「実学」教育訓練の実践を目指している。